

妙法蓮華經。五百弟子授記品。第八。

爾時富楼那弥多羅尼子。

從仏聞是。智慧方便。隨

宜說法。又聞授諸大弟子。

阿耨多羅三藐三菩提記。

復聞宿世。因縁之事。復

聞諸仏。有大自然。神通

之力。得未曾有。心淨踊

躍。即從座起。到於仏前。

頭面礼足。却住一面。瞻

仰尊顔。目不暫捨。而作

是念。

爾の時に富楼那弥多羅尼子、仏に從つて

この智慧方便隨宜の說法を聞き、また

もろもろの大弟子に阿耨多羅三藐三菩提の

記を授けたもうを聞き、また宿

世因縁の事を聞き、また諸仏の大自然

神通の力ましますことを聞いて未曾有な

ることを得、心淨く踊躍し、すなわ

ち座より起つて仏前に到り、頭面にみ

足を礼し却つて一面に住し、尊顔を

瞻仰して目暫くも捨てず。しかもこの

念を作さく、

【現代語訳】

まさにその時、富楼那（ふるな）は、仏によってこの智慧と、巧みな方便と、さらに時に適った教えが説かれたのを聞き、また、諸々の大いなる弟子にこの上ない正しき悟りの成就の記しをお授けになつたのを聞き、また、はるかなる過去の命から、自分たちがこの教えと仏との絆を保ち続けてきたということを知り、また諸々の仏には大いなる自在で靈妙な力のあることを聞き、かつてないような気持ちを抱き、その心清く、喜びに躍り上がって、仏の目前に至り、そのみ足に己が頭をつけて礼拝し、再び居住まいを正して、尊い仏のお顔を目を逸らさずに仰ぎ見て、このような思いを抱いた。

★ 富楼那弥多羅尼子：サンスクリット語でプールナ・マイトラヤニープトラ。釈尊の十大弟子の一人。略称として富楼那（ふるな）と呼ばれる。他の弟子より説法が優れていた。説法第一。

★ 阿耨多羅三藐三菩提：無上正覚。阿耨多羅は無上。三藐は正しく完全な。三菩提は悟り。宿世因縁：過去の命の因縁。

★ 前章の化城喩品第七に説かれる法華経と釈尊と、法華経の説法の場にいる者たちとのつながりを受けたもの。化城喩品第七では、三千塵点劫というはるかな昔、大通智勝仏という仏がいた。その仏は出家前、王であり、十六人の王子がいた。十六人の王子は、父が出家すると同じく出家し、父である仏から法華経を聞き、父の滅後、菩薩として法華経を説いた。十六番目の王子こそが、やがて娑婆世界にて仏となる釈尊自身であるという。またこの十六番目の王子から、かつて法華経を聞いた者たちが、転生し、今再びここで法華経を聞いていくものたちであるという。

★ 瞻仰：敬いの心で仰ぎ見ること。

世尊甚奇特。所為希有。隨順
世間。若干種性。以方便知見。
而為說法。拔出衆生。處處貪
著。我等於仏功德。言不能宣。
唯仏世尊。能知我等。深心本
願。爾時仏告諸比丘。汝等見
是。富樓那弥多羅尼子不。我
常称其。於説法人中。最為第
一。亦常歎其。種種功德。精
勤護持。助宣我法。能於四衆
示教利喜。

世尊は甚だ奇特にして、所為希有なり。世
間のそこぼくの種性に隨順して、方便知見を
もつて、ために法を説いて、衆生の處處の貪
著を拔出したもう。我等仏の功德において、こ
とばをもつて宣ふるごとく能わらず。ただ、
尊のみよく我等が深心の本願を知しめせり
。爾の時に、仏、もろもろの比丘に告げたまわく、汝
等、この富樓那弥多羅尼子を見るや不や。我常
にその説法人の中に、おいて最も第一たりと
称し、また常にその種々の功德を歎ず。
精勤して、我が法を護持し、助宣し、よく四衆に
おいて示教利喜し、

【現代語訳】

仏、世に尊ばれる方は、有難く特別で、その行いも稀有である。この世のはかなき者たちにさえ思いをかけ、その種別や性に応じて、巧みな方便の智慧をもつて、教えを説き、生きとし生けるあらゆるものたちが、その時々、所々で抱いてしまう貪りと執着の心を抜き出してくれる。わたしたちはとてもそのよいうな仏の功徳を言葉によつてあらわすことができはしない。ただ仏、世に尊ばれる方のみが、わたした

ちの心の奥底にある本当の願いを知っているのだ。まさにその時、仏は諸々の修行者たちにこうおっしゃった。

あなたたちよ、この富楼那（ふるな）をご覧なさい。わたしは、この富楼那（ふるな）を説法を行う者たちの中で、最も優れていると、常にその諸々の功徳を褒め称えてきた。常に心を傾けて勤め励み、わたしの教えを護り保ち、助け伝え、修行者や信者たちに、教え示し喜びを与えてきた。

★ 貪著…貪り執着すること。貪

（むさぼり）・瞋（いかり）・

痴（愚かさ）を三毒といい、

煩惱の根本である。著（じゃ

く）は執着、つまりとらわれ

てしまうことで、「計著」と

いう場合は、はからい執着す

るというように、単にものに

とらわれるのみではなく、解

決不能な形而上学的概念にと

らわることまでも含まれる。

★ ただ仏世尊のみよく我等が深

心の本願を知しめせり…わたし

たちは自分自身の心の奥底の

実は知ることができないとい

う意味にも解釈できる。

四衆…仏教徒の四つの種別。

比丘（びく）・男性出家者）・比

丘尼（びくに）・女性出家者）・

優婆塞（うばそく）・男性信

徒）・優婆夷（うばい）・女性信

ぐーそくげーしゃく ぶっしーしやうぼう にーだいにやう
具足解釈。仏之正法。而大饒
益。同梵行者。自捨如来。無
能尽其。言論之弁。汝等勿謂
富楼那。但能護持。助宣我法
亦於過去。九十億諸仏所。護
持助宣。仏之正法。於彼說法
人中。亦最第一。又於諸仏
所説空法。明了通達。得四無
碍智。常能審諦。清淨說法。
無有疑惑。具足菩薩。神通之
力。隨其壽命。常修梵行。

ぐそくー ほとけー しやうぼう げしゃくー
具足してー仏のー正法をー解釈 してー、おおいーに
どうぼんぎやうしゃー によやく によらい
同梵行者をー饒益すー。如来をーおいてーよりははー、
よくーそーのー言論のー弁をー尽くすーもーのーなーけん。汝
だーちー ふるなー わ ほう ごと じよーせん
等、富楼那はーただよくー我が法をー護持しー助宣すーと
い かいーきゆうじゆうおく しよぶつー
謂うこーとーなかれー。またー過去 九 十億の諸仏のー
みもとー ほとけー しやうぼう ごと じよーせん
所にーおいてーも、仏のー正法をー護持しー助宣し
せつぼうにん なか もつとー
、かーのー説法人のー中にーおいてーもまたー最もー
だいいち しよぶつーしよせつー くうほう
第一なりきー。またー諸仏所説のー空法にーおいてー
みようりやう つうだつ しむげち ー えー つね
明了にー通達し、四無碍智をー得てー常にーよくーあき
しょうじやう ほう と ぎわくー
らかに、清淨にー法をー説いてー疑惑あるこーとーな
ぼさつーじんつう ちからー ぐそくー じゆーみやう したが
、菩薩神通の力をー具足し、そーのー壽命にー隨
つね ぼんぎやう しゆ
つてー常にー梵行をー修しきー。

【現代語訳】

仏の正しき教えを完全に解釈して、大いに同じ教えを行う者たちに利益を与えてきた。如来のほかには、そのように言葉を使うことのできる者はいない。あなたたちよ、この富楼那（ふるな）は、ただ、わたしの教えを護り保ち助け伝えていられるだけとは思ってはならない。この富楼那（ふるな）は、過去の命の中で、九十億もの諸々の仏のみ許おいても、仏の教えを護り保ち助け伝え、それぞれに仏の世にあつて

も説法を行う者たちの中で、最も優れていたのだ。この富楼那（ふるな）は、諸々の仏が説くところの「空」の教えを明らかにして完全に理解し、教えと、その意義と、またそれを言葉に表し、ひとによく伝えるという四つの智慧を持ち、常に清くあきらかに教えを説いて、人々が疑いをもつことない。菩薩の靈妙な力を保ち、その寿命に応じて、常に真理に基づいた行いを続けてきたのだ。

★ 饒益（にようやく）…他者を利益すること。現代では「利益」

★ は金銭的なものをあらわすが、仏教では人生を豊かにし悟りに近づいていくためになることを利益という。

★ 四無碍智（しむげち）…無碍（むげ）とは障害物やさえぎるものない状態をいう。

① 法無碍智…教えに通じ、さまざまのなない智慧。

② 義無碍智…教えの意義に通じていること。

③ 辞無碍智…教えをあらわす言葉に通じていること。

④ 楽（ぎよう）説無碍智…教えを人に説くことに通じていること。楽は「ぎよう」と読む場合は「こいねがう」の意。

★ 梵行…ブラフマチャリア。世界の根本的なもの修行することというバラモン教やヨガのからの言葉。後に禁欲を意味するようになった。